

ジェンダー平等 だれもが自分らしく 生きられる社会へ

#WithYou セクハラ、性暴力、LGBT差別を許さない…
吉良よし子議員は、女性も、男性も、さまざまな性生きる
だれもが、自分らしく生きられる社会をと、一人ひとりの痛
みによりそい、声を届けてきました。

日本共産党 参議院議員

吉良よし子



人権侵害ゆるさない 声を届け続けた6年間



← 就活生のセクハラ問題をとりあげた国会質問（5月16日厚生労働委）

■ セクハラは法律で禁止を

国会でハラスメント行為を法的に禁止するよう求め続けています。『就活セクハラ』についてとりあげたときは、就活生が大学のキャリアセンターにセクハラ被害の相談をしたのに、たらい回しにされた事例を示したのに対し、文科省政務官は「適切とは言い難い」「大学等に徹底する」と答弁しました。

■ 下着の色までチェックされる「ブラック校則」の見直しを

“生まれながらの茶髪を髪染めを強要される” “下着の色が決められており、男性教諭が下着の色をチェックする”といった理不尽な「ブラック校則」をとりあげ改善を要求。大臣から「校則は絶えず積極的に見直すべき」、「児童生徒や保護者の参加が望ましい」との答弁を引き出しました。

■ DV・性暴力被害の相談を受ける 婦人相談員の「専門員」化を提案。 厚労省は実態調査を行うと答弁

■ 女性差別の医学部入試、 大学名公表を——国会で要求

政府官僚のセクハラ発言に野党の女性議員らとともに抗議する↓



いまこそ
ジェンダー
平等を

“あらゆる差別の根絶”めざし
全力でがんばります

日本共産党は特設ページを開設

JCP withyou

検索

東京
民報

2019年6・7月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。
発行/東京民報社(港区芝1-4-9平和会館5階)1965年11月12日第三種郵便認可

日本共産党

個人の尊厳と ジェンダー平等の ために

日本共産党の提言

「#WithYou」（あなたとともに）——「女性だから」「男性だから」と生き方を押しつけることなく、どの人も「個人の尊厳」が尊重される社会をつくるために、みんなで力をあわせましょう。日本共産党はそのための提言を発表しました。一部を紹介します。

①ジェンダー平等社会

（性差による差別のない社会）へ

◆「同じ仕事なのに女性はなぜ給料は安いのか？」——男女雇用機会均等法を抜本改正し、働く場での賃金や雇用差別をなくします。男女ともに家族的責任を果たせる働くルールを確立します。

◆選択的夫婦別姓を速やかに実現します。

◆あらゆる分野・団体の政策意思決定の場で女性が増えていけば、これまで当然とされてきた仕組みを変えていくことができます。

ご存知ですか？

ジェンダーギャップ指数
（男女平等度）は——
日本は149か国中110位
※世界経済フォーラムより

②多様な性を 認め合う

◆多様な性を認め合う社会ほど、個人の尊厳が大事にされ、暮らしやすい社会になる——LGBT／SOGI（性的指向・性自認）に関する差別のない社会をつくりま

◆同性カップルの権利を保障し、同性婚を認める民法改正をすすめます。

③ハラスメント 禁止

◆就活生・フリーランスの被害や、顧客や取引先からのハラスメントは対象外など、政府の対策は不十分です。国際水準のハラスメント禁止法をつくりま

安倍政権——
「女性の活躍」と言うけれど…
「子どもを産まないのが問題」「セクハラ罪という罪はない」、LGBTは「生産性がない」——ジェンダー平等に背をむけ、差別と分断を持ち込む安倍政権は退場させましょう。

2019統一地方選挙 各党当選者に占める女性比率

（道府県議）		（政令市議） %
51.52	日本共産党	52.17
24.58	立憲民主党	28.28
3.54	自民党	7.34
8.43	公明党	16.37
14.46	国民民主党	21.21
18.18	社民党	0

他にも、**女性に対する暴力を許さない**、**国籍や民族の多様性を認め合う社会**など、提言があります。

誰もが自分らしく生きられる社会へ、全力をつくします。
日本共産党の提言全文(右リンク)をぜひお読みください。

日本共産党 参議院議員

吉良よし子



共産党は、女性議員数も第一党

